

長崎県農林技術開発センター・農業大学校施設整備事業

基本設計書 概要版

(令和6年7月)

1. 計画概要

(1) 敷地概要

所在地	長崎県諫早市貝津町		
敷地面積	28,712.04㎡		
地区計画	都市計画区域 市街地調整区域		
防火地域	指定なし		
接道状況	なし（農林技術開発センターの管理道路 幅員：6.450m）		
基準建蔽率	60%	基準容積率	200%

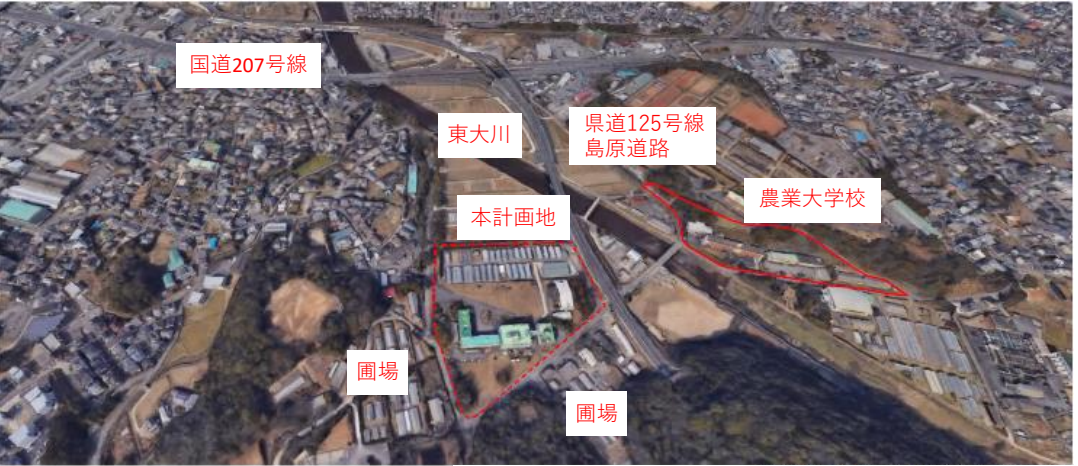


図2：航空写真“google earthより引用”

(3) 建築概要

- ・新築建築物 延床面積：5,798.49㎡
- ・新築建築物 建築面積：3,778.42㎡

	本館	その他
		車庫・駐輪場等(合計)
延床面積(㎡)	5,252.49	546.00
建築面積(㎡)	3,232.42	546.00
最高高さ(m)	12.60	2.40～5.50
耐火性能	耐火(任意)	準耐火等
規模	地上2階	地上1階
構造	R C造 一部S造	S造 またはR C造

(2) 鳥瞰イメージ



(4) 事業スケジュール

区分/年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
設計	基本設計	●	●				
	実施設計		●	●			
工事	建設工事			●	●	●	●
	解体工事			●	●	●	●
運営						●	●
						●	●

1. 計画概要

(5) 基本的な考え方

農林技術開発センターと農業大学校を、「デジタル化・グローバル化に対応できる人と産業を育成する農林業の総合拠点」として一体的に整備することとし、以下の考え方で基本設計を行いました。

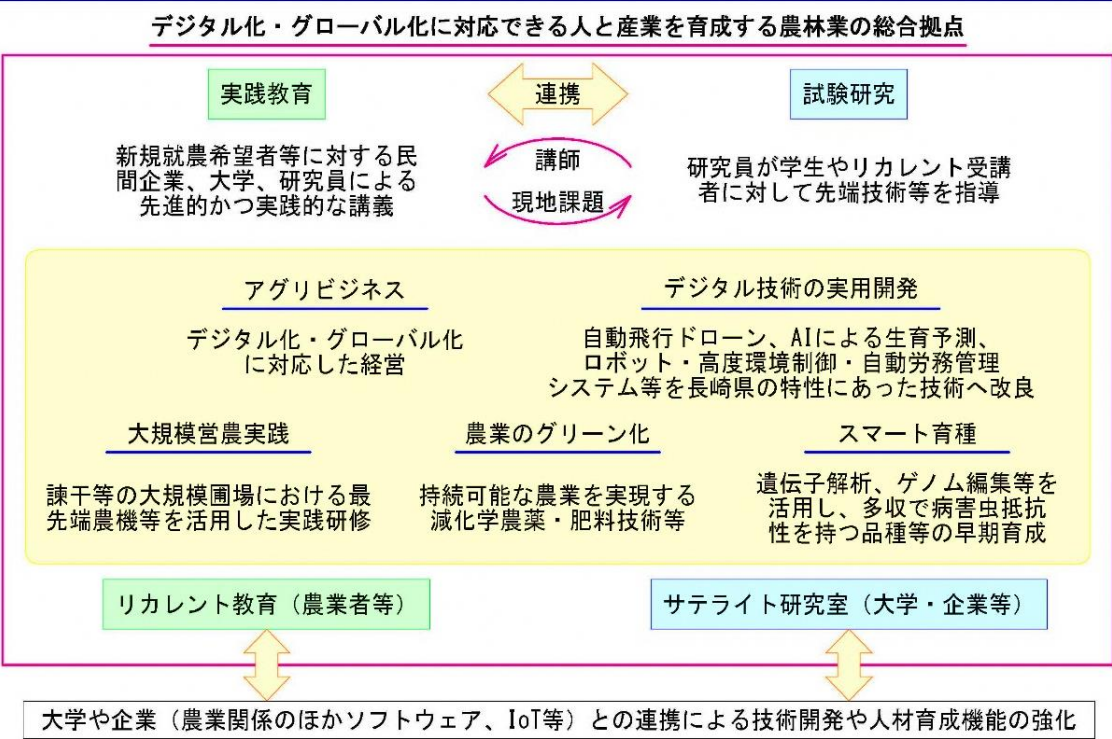
■施設整備のポイント

- ・教育の高度化及び産学連携の加速化を図り、民間企業・大学等が使用可能なサテライト研究室を設置し、実習・実験室は研究員・学生・企業・大学で共同利用します。
- ・先端技術を活用した研究内容や研究成果等の早期普及を図るため、研究員が、学生や農業者、現場指導者等に対して先端技術等の指導や講義を実施します。

(6) 配置計画の考え方

■配置計画概要

- ・今回計画のメインの建物である本館は、北側のハウス等への日影の影響を考慮し、ハウスが日影となる時間と範囲を現在の建物によるものより短くかつ小さくする位置に配置した、2階建ての低層で中庭（吹抜）を有するロ型形状の建物です。



教育の高度化によるミライの農業に対応できる人材の育成

- 【優れた経営者や技術者の育成】
 - ・農業のデジタル化やグリーン化、輸出等に対応したカリキュラム
 - ・民間や大学等の外部講師や研究員の積極的登用
- 【農業者や技術者が最先端技術等を学ぶ機会の創出】
 - ・県内農業者等がいつでも学べるリカレント教育の実施
 - ・輸出や革新的なアグリビジネスへのチャレンジに必要な実践的な能力を修得
 - ・先端機器類を用いた実践研修やデータ分析のノウハウ等を修得

農林業のデジタル化やグリーン化に対応した技術開発

- 【生産性向上と持続性の両立を実現する研究開発】
 - ・化学肥料、化学農薬の使用量削減に向けた農業のグリーン化に対応した技術の開発
 - ・ゲノム編集等を活用した本県の環境等に適合した品種開発等の実施（ばれいしょ、カンキツ、花き等）
 - ・アグリビジネスモデルの創出・拡大に向けた研究・開発・実証
- 【関連する県内産業との連携（農業DXを実現）】
 - ・サテライト研究室（大学・企業用共同研究室）の設置、研究フィールドの提供
 - ・農林業の技術と県内産業（ロボットやIoT、AIなどの分野）の技術を合わせたスマート農林業の総合的な研究・実証

2. 基本計画

(4) 内部空間デザインの考え方

■「協働エリア」

- ・"エントランスホール"や"コワーキングスペース"を中心とした「協働エリア」は職員や学生、企業や他大学との日常的な交流空間とし、柔軟な発想や自然な交流が生まれる雰囲気をつくるため、内装は開放的で活気があり、居心地の良い空間構成とします。
- ・1階の“エントランスホール”まわりの壁面や外壁仕上、床材に県産材の活用を検討し、“あぐり広場”や“中庭”の屋外と連続させ、天井材は県産木材を活用しつつ、高い天井高を確保し、開放的で居心地の良い空間とします。
- ・"コワーキングスペース"は天井を県産木材で木質化し、ルーバーや突板化粧板等をランダムに配置して、カジュアルな雰囲気とすることで居心地の良い雰囲気をつくります。

■「執務エリア」

- ・執務室や連続する廊下はO Aフロアとし、執務空間に配置した小部屋は可働間仕切りやガラスパーテーションを用いることで、将来的なレイアウト変更などの更新性に配慮した計画とします。

■「農業大学校エリア」

- ・講義を行う空間として学生が集中できる環境とするため、シンプルで明るい空間とします。
- ・吸音性や遮音性など音環境にも配慮した仕上材を選定します。
- ・教室間の壁は移動間仕切りを用いて2室を同時利用するなど、可変的な使い方を可能とします。

■「実験室エリア」

- ・各部門が共用する実験室は見通しが良く、明るく開放的な空間とし、内容に応じて仕上材を選定し、遮音性能等の機能面にも配慮した計画とします。
- ・天井材や仕上材はメンテナンス性や更新性に配慮した計画として、研究や実験内容の変化にフレキシブルに対応できる空間とします。
- ・仕上材は耐水性や耐薬品性を考慮して選定します。

■「その他」

- ・天井裏の空間や二重床による床下空間など配線・配管スペースを十分に確保し、更新性にも配慮した仕様とします。
- ・内装の色彩の切替えによってセキュリティゾーンや通路部分などを視覚的に認識できる計画として、利便性や安全性に配慮した計画とします。

■エントランスホール内観イメージ



■執務室ガラスパーテーションのイメージ



■天井木質化のイメージ



■周辺環境と調和するメインファサードイメージ



(5) 外観デザインの考え方

■長崎県の農業の中心施設としてふさわしいデザイン

- ・長崎県の農林業の「知の拠点」となる施設として、周囲の自然な環境へ調和したデザインとします。
- ・建物のメインファサードとなる北側は周囲の地形の沿った勾配屋根として、その土地になじみつつ、存在感のある建物とします。
- ・メインファサードはシンメトリーなデザインとし、研究や執務空間の入る東棟と西棟は、日よけルーバーや柱が連続する規則的でリズムカルなデザインとすることで、知の拠点として格調があり端正な印象を与えます。
- ・農林業の基本となる「土」を連想させるレンガの風合いをデザインのポイントとして用い、自然でやわらかな印象を与えます。



西面立面イメージ



北面立面イメージ



レンガルーバーによる端正なデザイン



「土」を連想するレンガタイル